

十方山（じっぽうやま／10の方向が見える山？）ハイキング

狭義の西国街道 京都 - 西宮間を大坂を経由せずに西国へ抜ける脇街道として西国大名の参勤交代に利用
旧街道と並行するように国道 171 号が通る

関大明神社(せきだい-みょうじんじゃ

関大明神、関戸明神(せきど-みょうじん)、関戸神社とも呼ばれ旧西国街道沿いにある神社。

この地は山城国と摂津国の境で、また天王山と淀川に挟まれた交通の要衝で関所が設置されてそれが名前の由来。祭神は大己貴命(おおなむちのみこと)、天児屋根命(あめのこやねのみこと)、また伯耆国大山(ほうきこくだいせん)の大智明神(だいちみょうじん)を祀るともいう。

平安時代初期、第 52 代・嵯峨天皇(786-842、在位:809-823)の河陽離宮造営の頃に関所が廃された。本殿は室町時代の建物で大阪府指定文化財になっている。

関跡には関戸院(せきどいん)という官舎が建てられ、貴人、官人が宿泊所として利用したという。

901 年、菅原道真(845-903)は、太宰府左遷の途中、この関戸院で出家したという。

996 年、長徳の変で配流途中の藤原伊周(974-1010)が、この地で病になり立ち涸ったという。

1023 年、藤原道長(966-1028)が、高野山、四天王寺参詣の帰途に立ち寄り、すべて銀製の器でもてなしを受けたという。

1183 年、都落ちした平家一門は第 81 代・安徳天皇の玉御輿をここに据え、淀川対岸の男山八幡(石清水八幡宮)に都帰りを祈念したという。

山崎宗鑑(そうかん)の屋敷跡

関大明神社の斜め前の古い建物、敷地内には当時の井戸が残っているそうです。山崎宗鑑は俳諧の創始者古い門と石碑があり。これは「焼け残りの表門」と言うそうで幕末の禁門の変で焼け残った門だとか。

句碑には「ありがたき姿おがまむ杜若(かきつばた)」芭蕉と刻まれている。

松尾芭蕉が山崎宗鑑の屋敷を訪れた時の句だとか。

東大寺水無瀬荘跡碑

「東大寺」の地名は、むかし、奈良・東大寺の荘園「水無瀬荘」(みなせのしょう)がこの辺りにあったためです。水無瀬荘は、東大寺造営中の天平勝宝年間(749 年から 756 年)に聖武天皇の勅によって東大寺領とされ、荘園は室町末期ごろまで続きました。奈良・正倉院に残る日本最古の絵図の一つ「摂津国水無瀬絵図」(せつつのくにみなせえず)には、当時の荘園の様子が描かれている。

水無瀬の滝

天王山の西尾根から発した滝谷川が、天王山断層によって落ち込んでできた高さ約 20 メートルの滝。昔はもっと水量があったそうで、古来より歌枕になっています。

水無瀬山せきいれし滝の秋の月 おもひ出するも涙なりけり 藤原家隆

藤原定家の日記『明月記』に、後鳥羽上皇が滝を觀賞されたという記録が残っている。

小倉神社

社伝によると、養老 2 年(718 年)の創建とされる。平安遷都の際には、御所の鬼門除けとして祈願され、嘉祥 3 年(850 年)に正一位の神階を賜ったというが、同時期の事蹟を記した『日本文徳天皇実録』には記載がない。『延喜式』神名帳においては「山城国乙訓郡 小倉神社 大 月次新嘗」と記されている。

安土桃山時代では山崎の戦いの際、豊臣秀吉が家臣の片桐且元、脇坂安治を遣わし戦勝を祈願した。そして勝利したとして、毎年米三千俵を寄進したといい、江戸時代には江戸幕府より山地二十余町歩を寄進したといわれ、明治維新までの旧境内地は六万坪余にのぼった